

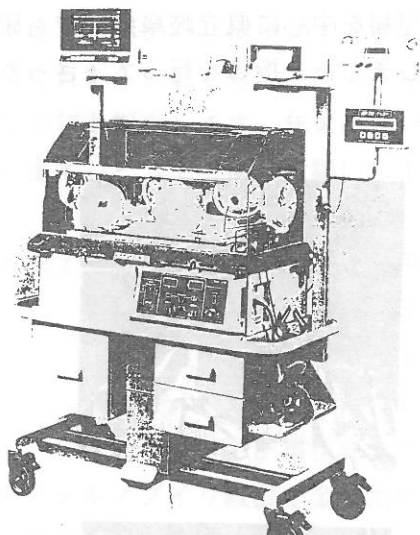
◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。  
不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

# ポレーシエ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1994.11.16 No.24

## ゆりかごキャンペーン目標達成！

～キリチャンスキー氏と女性医師リュードさんも来日～



(現地へ送られる予定の保育器)

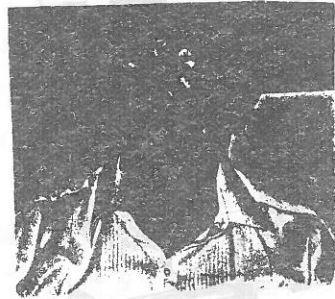
6月より現地に保育器を送ろうと開始した「いのちのゆりかごキャンペーン」は9月終了時点までに3377口のカンパがあり、保育器7台分の675万4789円が寄せられました。保育器の輸送費用も含め目標を達成することができました。ご協力下さった皆様ありがとうございました。

紙面の都合でひとつひとつあげることはできませんが、遠く北海道などから紹介記事を見てという方、高校生、生協などのグループでまたは前回ご紹介しましたように保育器でわが子が助かったのでひと事ではないという方などなど本当に沢山の方からカンパを頂きました。チェルノブイリ救援・中部では、この通信誌ポレーシエをこれまでカンパをお寄せ下さった皆様全てにお送りすることにより皆様の大切なお金がどのように使われるか、どのような救援活動を行っているかを常に最大限公開しつつ救援を行っています。この活動も各地のグループが、仕事を分担し補い合い進めています。いたらぬ部分も多いかと思いますがこれからもどうぞご支援ください。

## キリチャンスキー氏と 女性医師リューダさん来日について

9月6日より現地の未熟児救援（ゆりかごキャンペーン）を訴えるため、ジトームルより現地救援窓口である「移住基金」代表のキリチャンスキー氏と女性医師リューダさんが来日しました。キリチャンスキー氏は、各地でゆりかごキャンペーン協力を訴えつつ、各地のグループメンバーと今後の救援の進めかたについて交流会を行い16日帰国しました。また救援中部の招待による二回目の日本での医療研修となったリューダさんは、名古屋市立大学病院小児科を中心に県立岐阜病院でも研修を受け、10月7日（金）名古屋空港より帰国しました。指導を行って下さった医療関係者の皆様本当にありがとうございました。

**キリチャンスキー氏：**移住基金代表、54歳、ジャーナリスト連盟支部書記。移住基金は現地民間救援団体として医師、法律家、教師、会計士、ジャーナリストなど9名の委員で構成され専従職員一名が運営に当たっている。



**リュドミラ・チュムト・オレゴヴナ医師：**ウクライナ・ヴィニツァ医科大卒業、大学院コース終了。ジトームル州立小児病院勤務。専門、小児血液病。州血液部門主任。一昨年他の二名の医師とともに来日。3歳の男の子の母。夫も医師。愛称リューダさん。



今回のキャンペーンで購入された保育器は、上記のリューダさんの勤務する州立小児病院に寄付される予定です。また積み出しは11月18日で名古屋港からコンテナで現地へ向けて送られます。

### 竹内さんその後

NGO人材強化のための留学制度（主催：立正校成会）合格者第一号となった竹内高明さん（31歳）は、キリチャンスキー氏の帰国に同行し、現在キエフ大学語学研修コースで元気に研修を受けています。（竹内さんの手紙9頁に紹介しました）

## ミルクキャンペーン開催のお知らせ

今年で4回目となりました「ミルクキャンペーン」を今年も行います。ミルクキャンペーンは、現地で生まれた赤ちゃんに放射能で汚染されていない粉ミルクを送ろうと始めました。たとえ放射能は微量でも最も成長の激しい赤ちゃんにとっては大人と較べて影響ははるかに大きいものです。

チェルノブイリ救援・中部ではこれまで3年間で合わせて15.75トンの粉ミルク（スキムミルクを含む）を現地の小児産婦人科病院や幼稚園、小学校などに届けて来ました。また皆様から頂いたメッセージも一缶一缶に張り、単にモノを送るだけでなく私達の心と現地のお母さんやこのミルクで育つ子供たちがどこかでつながってくれたらと願っています。昨年このミルクキャンペーンを担当した浜松の皆さんが今年も担当します。年末のあわただしい時ですが、来年1月いっぱいまで行っています。どうぞ協力をお願いします。

申込方法：粉ミルク1缶分2000円（半分でもかまいません）の寄付をお願いします。郵便振替用紙に「ミルク代」と明記のうえ、救援・中部まで送りください。締切は来年1月末まで。

またメッセージシールをさしあげております。「救援基金・浜松」または救援・中部事務局までご連絡下さい。シールをお送りします。

\*チェルノブイリ救援基金・浜松

〒431-31 静岡県浜松市笠井町1299-2 高井信行方

TEL.FAX: 053-435-1419

帰国したキリチャンスキー氏の手紙から ～粉ミルクについて～（抜粋）

出生率は減りましたが粉ミルクの量は充分ではありません。一方でジトーミル州の乳児の死亡率が増え今年9カ月間で116人が死亡したのです。政府も子供たちの食べ物についてはあまり関心を払いませんが、これは経済的な危機が理由です。11月になって粉ミルクの値段は5倍から8倍になっているのです。



○救援・中部運営委員会より：私達は、このミルクキャンペーンを行ってはいませんが、決して粉ミルクによる育児を薦めているものではありません。赤ちゃんには栄養学上も抗体を作る上でも、またスキンシップの点でも、母親から母乳が与えられることがあくまでも最上のものと私達は考えていますし、これはWHOでも認めていることです。

## ウクライナの母とヒロシマの母と

～今年の夏、ニーナさんを日本に迎えて～

東 しげの (金沢)

「広島よ！私はお前の痛ましい過去と逢うために、こうしてはるばる遠くからやってきた。

静かに、静かに・・・樹々の葉がささやく。静かに、静かに・・・そよ風が息づく。広島のを悲しみの風がそよぐ。

原爆ドームが痛ましげに街を眺め、川を見ている。その“ひと気のない窓”を瞳として。ドーム円屋根は、あの1945年8月の悲劇の朝を永遠に忘れない。原爆の炸裂、戦慄、叫喚、子供達の泣き声、そして戦争の罪なき犠牲者の死、死、死。

非業の死と遂げた人達の魂のやどる小さな家に似た灯籠が、川に浮かび、浮かび、流れる。ほら、しょうじの小さな家にも、やすしの小さな家にも灯がついた。川は昔を偲び、静かに泣いている。川岸で目をしばたかせながら。

向こうに学校が見える。400人の児童が一瞬にして焼け死んだ。石のプレートに沢山の名前が刻まれている。血の様に真っ赤なサルビアの花が、花壇にあふれている。禎子さんは折り鶴の翼にのってお星さまのところへ行ってしまった。この世の方がどんなにか良かっただろうに。

爆発によって丸焼けになった樹から、若い枝が芽を出してきた。その丸裸になった樹と同じく、戦争にくじけないで生き抜いてきた沼田鈴子さんは、私達を出迎えてくれた。原子爆弾は街を破壊した。しかし、彼女の心にひそむ善良さと優しさと、生へのひたむきな願いまでも破壊することはできなかった。

夾竹桃が優しく咲き乱れている。建物も大きく装いをこらしてよみがえった。戦争を知らない若者達が街を行く。広島は涙が七つの川となって海にそそいでいる。

母なる大地は、在りし日のことをいつまでも忘れず泣き続けるであろう。流れる水は、この涙によって海水のように塩辛く苦汁の味がする。」

広島を訪れたこの感想を書いたのは「たった一回の原発事故で」～ウクライナの母たちからの手紙～(チェルノブイリ救援・中部編 地湧社刊)の中の一人、ウクライナ・マカレピッチ村の女性教師、ニーナ先生です。「私達は原子力の被害によって結ばれた、不幸な姉妹なのです。」という書き出しで、文通を希望してきたニーナ先生と、同じく小学校教師だった私と、お互いのクラスの子ども達ともども文通をはじめたのが、今から3年前の六月。翌年の三月までに大変むずかしい通信事情にも拘らず、私達からは四回の手紙と四回の小包、ニーナ先生達からは二回の小

廻と八回もの手紙を出し合い交流は深まっていきました。

「あなた方からくる手紙だけが私達の生きる希望でした。支えでした。」という悲しい手紙を最後に私は退職しどうしても会いたくなり、二年前彼らに逢いに行ってきたのですが、今年の夏はニーナ先生を金沢の地へお招きすることになったのです。

1945年ヒロシマ・ナガサキの被曝体験を語り継ぐ朗読劇「この子たちの夏」の上演実行委員のなかま達が、十周年連続自主上演（全国でただ一ヶ所）の記念イベントとしてお招きしたのです。7月8日から5週間の滞在で。

白内障の手術をしなくてよくなって（メガネを作れば視力が回復できる）日程が空いた分、猛暑にも拘らず22回もの交流会に出てチェルノブイリの実相を語って歩かれました。

「この子たちの夏」の朗読劇も観た（ロシア語に翻訳された台本を読んで）後、来日の目的の一つ、被曝地、広島を訪れて、アオギリの木の下で被曝証言をお聞きし前述の感想が生まれたのです。

「しょうじょう、やすししょう・・・。」 戦後49年たった今も、わが子に語りかける母達の叫び。ウクライナの母達も同じくこの様に泣いている。

今年の夏、時を超え場所を超え、ヒロシマとチェルノブイリと金沢がひとつになりました。

名古屋空港から離日する最後の8月12日。ニーナ先生の手には、ジトーミルの病院から要請のあった抗癌剤アンプル100本分の袋がしっかりと握りしめられていました。金沢での滞在の思い出がいっぱいつまったダンボールと共に。このことがニーナ先生のおかれている現実を全て象徴しています。

暑かった今年の夏、ニーナ先生が蒔いていった平和の種が、確実にゆっくりと芽ぶくことを信じています。



写真：被曝証言された沼田鈴子さん（映画「にんげんをかえせ」出演）とニーナ先生、広島平和公園のアオギリの横で。

\*尚、ニーナ先生の日本への招待のために東さんと金沢の皆さんたちが募ったニーナ基金の一部をゆりかごキャンペーンに寄付頂きました。ありがとうございました。

## 【ニュース】 あなたが知らされていないこと

～原発はかけがえのないエネルギー？～

史上まれだった夏の猛暑、

実は7、9月の原発発電量は昨年よりマイナスだった。(中電管内)

中部電力の7月の発電実績(速報)は、連日の猛暑で電力需要が高まり、前年同月比19・1%増の118億5100万キロワット時になった(購入電力量を含む)。

7月としては史上2番目の伸び率。以下%は、対前年比較。

内訳は 水力発電 52・6%減の5億6900万キロワット時  
火力発電 61・2%増の80億6800万キロワット時  
原子力発電 5・4%減の23億6100万キロワット時

8月

内訳は水力発電 60・5%減の5億1900万キロワット時  
火力発電 56・4%増の75億3800万キロワット時  
原子力発電 11・2%増の26億3300万キロワット時

9月

発電実績は1973年以来の2けたの伸びとなった。

前年同月比10・1%増の103億2200万キロワット時

内訳は水力発電 57・2%減の4億7700万キロワット時  
火力発電 49・2%増の76億300万キロワット時  
原子力発電 27・0%減の16億4300万キロワット時

参考：共同通信経済ニュース速報  
時事通信ニュース速報  
中電ニュース

### 病院の子供たちにクリスマスや 新年のカードを

昨年まで救援・岐阜が担当していましたメッセージカードキャンペーンを  
今年は「チェルノブイリ救援・名古屋」が担当します。子供たちに難しい言葉  
はいりません。楽しい挿し絵や簡単な言葉をカードにしてお送り下さい。

送られたカードはウクライナのクリスマスの日である1月7日頃病院や学  
校に届けられます。締切は12月20日で送り先は救援・中部事務局です。

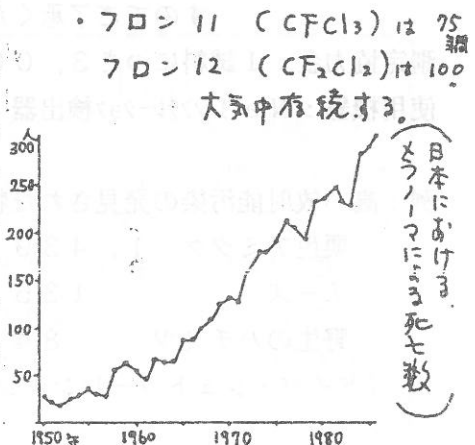
○地球温暖化と原発5000基

話が少し脱線しましたが、地球の温暖化の原因をいかにくいとめるかということが、今さかんに議論されているわけです。よくその時に炭酸ガスを出さないから原子力発電はいいんだ、という話が出てきます。割合高名な学者も、そういうことを言ったりします。しかし、これはよく考えていない、ものごとをきっちり考えていない人の議論であって、原子力発電で温暖化を防止するなどとてもありえない、ということは少し計算をすればわかります。

確かに、定性的には、原子力発電というのは炭酸ガスを出しません。けれども、原発で今地球上に作り出しているエネルギーというのは、全体からみれば本当に微々たるものです。数パーセント程度です。ところで石油とか石炭を燃やして炭酸ガスが増えているのだから、それをやめて全部原子力に置き換えよう、とすれば、大変な数の原発を作らなければなりません。5000基の原発が必要です。現在、世界で430基ありますから、10倍以上です。しかし、一挙に5000基に増やしたとしても、炭酸ガスの減る割合というのはちょっとりしか減りません。炭酸ガスは、その分、もちろん減るわけですが、温室効果に対する割合は、ほんの少しです。まして5000基も原発を作ると、世界中のウラン資源は3~4年でなくなります。ですから現実を考えた場合、話にならない方法だということがわかります。

○オゾンホールと日本の皮ふガン

紫外線はあらゆる遺伝子に突然変異を起こすなどマイナスに働きます。その一例として今のオゾンの変化と日本における皮ふガンの増加率との関係が、右に示してあります。メラノーマというのは、非常に悪質な皮ふガンで死亡率が高いのですが、それがここ30年くらい、それによると死亡数が、絶対数は少ないですが、どんどんふえていっています。紫外線が強くなると、皮ふにあたった時、皮ふの細胞に突然変異を起こしてガン化します。メラノーマというのは、黒色のガン細胞です。このメラノーマの死亡数を北海道から九州まで地域別に調べると、南に行くに従って死亡数が多くなっています。つまり、



太陽の光の強いところほど紫外線も強いわけですからこうなるのです。

人間は光を見ますから目に紫外線が入って、目の細胞がやられて、これはアメリカの推定ですが、このままいくとアメリカでは、千数百万人の白内障が生じるのではないかなど、色々なことが言われています。(次回に続く)

\*\*\*\*\*  
**食べ物の放射能が心配な方へ**

～関西国際空港で放射能汚染肉発見～

昨年の1月から日本では輸入食品の放射能検査は行われていません。このためかつてしばしば放射能の検出されていたヨーロッパ産のチョコレートなどが各地で見受けられるようになりました。そんなさ中、11月8日関西国際空港でセシウムの放射能レベルが370ベクレルを超えるフィンランドのトナカイ肉が発見され輸入差し止めになっています。再び食べ物の放射能が心配になって来た、汚染の度合いが知りたいという声も聞かれています。そこで救援・中部メンバーの渡辺春夫さんも参加している市民による放射能汚染測定室をお知らせします。

**浜松放射能汚染測定室 〒432 静岡県浜松市富塚町字茂左山590-1**

**TEL. 053-428-2885 和田百子**

**FAX. 053-543-0664 渡辺春夫**

測定対象：食品、水などに含まれるセシウム134, 137。

測定依頼の方法：重量で200g以上、容量では0.5リットル以上を用意してください。これ以下では微量な放射能は測定できません。予め上記に申し込んでから試料を送って下さい。試料は衛生上の観点から返却いたしません。分析データは直接送付しますが、利潤を目的とした分析機関ではありませんのでデータは公表しますのでご了承ください。

測定協力金：1試料につき3,000円

使用機器：NaIシンチレーション検出器(アメリカキャンバ製マルチチャンネルアナライザー)

例：高い放射能汚染の発見された物

栗色アミタケ 1,439 (ドイツ '93年3月)

チーズ 135 (ノルウェー '93年5月)

野生のハチミツ 84 (北アラスカ '93年9月)

(ドイツ・シュトラレーンテレックスより抜粋) 単位平均値、ベクレル/Kg



チェルノブイリ救援・中部 収支報告 (1994.4.1-9.30)

救援・中部では、皆様の寄付金がどのように使用されているか最大限公開するべく、この通信誌に一号おきに収支報告の確定版を掲載しています。今回はリューダさんの来日を含めキャンペーンが9月いっぱいまでかかったこともあり、このボレージェによるご報告が遅れましたこととお詫びします。

収 支	金 額	支 出	金 額
前期繰り越し	6,616,111	医薬品代	850,379
救援寄付金	4,981,124	渡航費(医師、代表)	230,000
立成校正会(留学費用)	1,160,000	渡航費(竹内さん留学)	128,830
郵便ボランティア預金	850,000	宿泊費等滞在費用	467,554
預金利息	39,537	竹内さん持参金	406,660
		電話代	113,578
		印刷代	27,190
		郵送料	532,102
		コピー機修理代	24,514
		家賃、光熱費用	259,661
		人件費	351,500
		備品代	8,614
		国内旅費	33,020
		雑費	37,375
		小計	3,712,939
		次期繰り越し	9,933,833
合 計	13,646,772	合 計	13,646,772

竹内さんからの手紙抜粋 ～留學生活の様子～ (10月15日付)

(キエフ大学の寮へ住んで) 最初の二週間ほどは、大学での勉強、宿題、炊事、洗濯(洗濯機など無いので共同のシャワー室で手洗い)、炊事は共同の炊事場で日本人三人と韓国人一人と一緒にウクライナ米を炊き、キムチをつくり一緒に日韓混合料理を食べています、ピザを取るための手続き、食材の買い出しとそれだけで毎日が過ぎてしまいました。一ヶ月近く経ってやっとこれだけ(手紙を)書く余裕ができた、というのは、まるで子供のようなのですが、事実です。

## 事務局維持会員入会のお願い

あなたも救援・中部の維持会員になって下さい。救援を続けるために事務局維持費用が必要です。

◎維持会員入会費 10,000円/年 (または1000円/月)

郵便振替口座：00880-7-108610 (旧名古屋8-108610)

(\*通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい)

### \* \* お知らせとお願い \* \*

- ・紙面の都合で今回は大きく扱うことができませんでしたが、現地の身体障害者の協会より、チェルノブイリ原発の除染作業などで体が不自由になった人々に「車イス」が欲しいという申し出が届いています。皆様のご支援をお願いします。日本で「車イス」を買うと一台約8万円程度のようなので。また関係団体の皆様、ご連絡いただければ現地との交流の橋渡しをさせていただきます。
- ・ようやく「ゆりかごキャンペーン」も無事終了することができました。ご協力いただきありがとうございました。各地でもし今回のまたは以前のポスター等が張られておりましたら、お手数ですが外して頂ければ幸いです。
- ・救援中部のTシャツができました。一枚1500円です。またステッカーは一枚200円です。
- ・「たった一回の原発事故で」(救援・中部 編)が地湧社より発売されています。ご希望の方は地湧社または救援・中部まで。一冊515円+送料51円  
地湧社：郵便振替口座 東京2-36341  
東京都千代田区神田東松下町十二番一号(ミトモ第二ビル)
- ・「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」(坂東弘美著 八月書館) 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。
- ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になっています。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード 一枚1000円50度数。
- ・現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文。専門家の解説つき 一部350円。

\*\*\*\*\*

チェルノブイリ救援・中部(郵政省処理システムの変更に伴い下記の郵便振替口座00880-7-108610、に変更されました。尚、旧振替用紙と番号でも振込は可能です。旧番号：名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00) 代表：寺町みどり

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください)